

平成30年度 第1回宮城県図書館協議会 会議録

1 日 時 : 平成30年8月1日(水) 午後2時から午後4時まで

場 所 : 宮城県図書館 研修室

2 出席者 : 佐藤 義 則 会長
柴崎 悦 子 副会長
佐藤 初 美 委員
須藤 尚 委員
千葉 えり子 委員
中川西 剛 委員
宮 川 宏 委員
武者 元 子 委員

3 事務局等出席者の職氏名

館 長	蜂 谷 洋
副館長	日 野 和 典
企画管理部長	浅 野 恒 志
資料奉仕部長	石 川 俊 樹
企画管理部次長(総括担当)	牛 渡 丈 晴
資料奉仕部副参事兼次長(総括担当)	岩 間 美 樹
企画管理部総務班主幹(班長)	田 川 俊 之
企画管理部企画協力班主幹(班長)	伊 藤 亮 一
資料奉仕部一般図書班主幹(班長)	昆 清 悦
資料奉仕部資料情報班主幹(班長)	安 藤 祐 子
資料奉仕部児童・視聴覚班次長(班長)	佐 藤 耕 造

・オブザーバー

生涯学習課生涯学習振興班主幹(班長)	佐 藤 真 裕
--------------------	---------

4 委嘱状の交付

蜂谷館長から、各委員へ委嘱状の交付

5 傍聴について

牛渡次長から傍聴希望者がいないことを確認

6 開会

牛渡次長が本日委員 8 人の出席により定足数を満たし会議が成立した旨の報告をし、開会を宣言

7 委員及び図書館職員紹介

8 会長・副会長選任

会長には、佐藤義則 委員，副会長には、柴崎悦子 委員が選任された。

9 会長挨拶

ただいま御選任いただきました佐藤でございます。なにぶん力不足ではございますけれども、皆様の御協力の元でやっていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

今期第 3 4 次ということになるのですが、今日御欠席の金澤委員を含め、9 人の方で新しい図書館協議会としてスタートすることになりました。前期から 3 人しか残っていないので、6 人の方が新たに委員になられた方でございますので、フレッシュな気持ちで進めてまいりたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、図書館を取り巻く環境というのは、最近色々な面でインターネットでございますとか、あるいは情報デジタル化が急速に進んでおりまして、一方では読書離れでありますとか、色々な面で図書館の運営形態あるいはサービスの方式、コレクションの在り方について検討しなければいけないような、非常に課題が多い状況になっているかと思っております。そうした中で、図書館協議会はそうした社会変化の中でも、宮城県図書館が社会全般あるいは市町村図書館や学校図書館に対して充実した支援を果たしていけるように、言うなれば図書館のための図書館としての機能を十分に発揮することができるように、求められているのだと考えております。本日の会議は、宮城県図書館の事業ガイドや前回までの協議会で御審議いただいた振興基本計画などについて、御報告をいただくということになっておりますので、これからの図書館事業を推進する上で、各施策がより良い取組になりますように、様々な視点から委員の皆様に御意見を賜りたいと考えております。どうか、本日の協議会の運営に関しまして、委員皆様の御協力をいただきますようお願い申し上げます。挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

10 副会長挨拶

それでは、簡単に一言だけ御挨拶申し上げたいと思っております。ただいま副会長に選任いただきました、名取市図書館の柴崎と申します。図書館協議会の委員としましては、平成 25 年の第 3 1 次から、それから副会長としましては、第 3 3 次から務めさせていた

だいております。これから2年間、ここにお集まりの皆様方の御協力をいただきながら図書館協議会の運営をしてみたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

11 館長挨拶

改めまして、蜂谷でございます。本日は、35度を超えるというお暑い中、また遠い紫山までお越しいただきありがとうございます。

この4月から宮城県図書館長を拝命いたしまして、直近の話題は御存知のとおり羽生結弦選手の生サインが1階エントランスにありまして、おかげさまで夏休み初回の土日の入館者数が昨年同期より100~200人程増えております。羽生選手の御威光といいますか、まさに恐るべしというところでございます。そういった感じで直接の宮城県図書館の提供するサービスでもって直接宮城県図書館においでくださるようなサービスですが、先ほど会長がおっしゃられましたように図書館の中の図書館ということで、広く市町村の図書館をいかに後押ししていくかというのが県図書館としての役割なのかな、と思っております。それに関しまして、本日第34次の図書館協議会ですけれども、今後2年間委員の皆様から色々と御忌憚ない意見をいただきまして、我々の協議の一つの参考と言いますか、取り入れていきたいと思っておりますので、本日はよろしくお願いいたします。

12 配付資料の確認及び日程説明（牛渡次長）

<説明関係資料>

- | | | |
|-----------------------|----------|------------|
| ① 平成29年度主要事業実施等概要 | ・・・・・・・・ | (以下、資料1-1) |
| ② 宮城県図書館経年推移状況 | ・・・・・・・・ | (以下、資料1-2) |
| ③ 第2期宮城県図書館振興基本計画 | ・・・・・・・・ | (以下、資料2-1) |
| ④ 第2期宮城県図書館振興基本計画最終評価 | ・・・・・・・・ | (以下、資料2-2) |
| ⑤ 第3期宮城県図書館振興基本計画 | ・・・・・・・・ | (以下、資料3) |
| ⑥ 平成30年度主要事業計画概要 | ・・・・・・・・ | (以下、資料4) |

<配付関係資料>

- ① 図書館協議会条例
- ② 第34次宮城県図書館協議会委員名簿
- ③ 平成30年度宮城県図書館要覧
- ④ ことばのうみ(No. 60)
- ⑤ 「東日本大震災文庫」チラシ
- ⑥ 「東日本大震災アーカイブ宮城」チラシ
- ⑦ 「その場で体験 震災ナビ」チラシ

13 議長選出

図書館協議会条例第6条第1項により、会長である佐藤会長（以下、議長）を選出

14 会議録署名委員の指名

議長が中川西剛委員を指名

15 議事

○ 議長

それでは議事に入ります。はじめに「報告（１）平成２９年度事業概要について」事務局から説明をお願いします。

○ 石川部長

「報告（１）平成２９年度事業概要について」説明いたします（以下、資料１により説明）。

○ 議長

はい、ありがとうございます。ただいま御説明いただいた内容につきまして、御質問あるいは御意見等ございましたらお願いいたします。

○ 中川西委員

ひとつだけ。

○ 議長

はい、どうぞ。

○ 中川西委員

後で、評価のあたりで出てくるかもしれませんが、入館者数が減っているという部分ですが、年代別とかそういう分析みたいな、どの辺が減ってきているのだろうかとか、または、減っている中にも増えているところもあるかもしれませんし、その辺どうなのだろうかあって、思ったものですから。でも中々わからないですね。入館者の方が主婦なのか子連れなのか。あとは、土日はどうなのか平日はどうなのか。まあ、平日はだいたいお決まりかなと思うのですが。結構高齢者の方々も、逆に増えてきているのかなと思ったりもしていて。減ったということは事実なのですが、この辺はどういうふうに変ってきているよみたいなものがあると、先の分析の手立てもできるのかなと思った次第でした。以上です。

○ 石川部長

ただいま御意見いただきまして、ありがとうございます。御指摘のように入館者数につきましては、出入口のところにカウンターがあるだけです。正直申しまして年齢構成等の分析資料というのは取れないでいるというようなところでございます。ただ、例えば利用カードの登録者ですと、年齢等も分からないわけではございませんので、そうしたところの分析等々というのは、やろうと思えばできるのかな、とは思いますが、まだそこまで手をつけられずにおるところではございます。ただ、別の先ほどもお話ししましたイベント企画展にはですね、そういった研修会なんかでも個別の数字はある程度参加者といいますか参観者は増えてはいるんです。ただ残念ながら、全体的な入館者数は減っていますし、当然なんですけれども貸出冊数等の利用も減っているというところですので、色々な図書館に足を運んでいただけるための企画等を進めてはおるところですけれども、図書館本来での図書利用という部分では、残念ながら減少が続いております。一般的に言われる全国的な読書離れですとか、あるいは市町村図書館さんの充実とか色々そういう影響があるかと思えますし、さらに広いスパンで考えれば人口減少等の影響もあるのかなと、特に当館の場合ですと自家用車でいらっしゃる以外はバスを利用してということになるので、それですと手軽に來られる場所ではないのかなと。どちらかという滞在型の図書館になっておりますので、一度おいでいただければじっくり調べ物をしていただくとか、館内を色々回っていただくといった使い方になっていくかと思えますので、なかなかその辺をうまく数値で表すような形でですね、お示しできないのは少し申し訳ないところではございますけれども、今いただいたような御意見を元に、今後もさらに集約していきたいと思えます。どうもありがとうございます。

○ 議長

その他いかがでしょうか？

いまの中川西委員からありました御質問等につきましては、あるいは御対応については、今後の振興基本計画等についても、あるいは、今後の評価の在り方にも関わってくるかと思えますので、もし、御質問がないようでしたら、先に進ませていただいて、ちょうど含めて議論ということにさせていただきたいと思えます。また、必要に応じて戻って議論も可能ですので、先に進ませてさせていただきたいと思えます。

それでは、報告の2の方です。「報告（2）第2期宮城県図書館振興基本計画の最終評価について」事務局から説明をお願いします。

○ 浅野部長

「報告（2）第2期宮城県図書館振興基本計画の最終評価について」説明いたします。
（以下、資料2により説明）

○ 議長

ありがとうございます。ただ今の説明について、御質問、御意見等がございましたらお願いします。いかがでしょうか？

○ 佐藤（初）委員

２ページ目の項目６番目のところ、パスファインダーをなさっているとのこと、そのときの利用者の関心に合わせて作成されているということで、非常に素晴らしい取組だと思います。ものすごく大変な作業だとは思いますが、職員の方のスキル養成にもなるでしょうし、非常に見習いたい取組だと思います。こちらについては、ホームページ（以下「HP」）の方と印刷物、基本両方、配布いただけるということなんですか？

○ 石川部長

パスファインダーにつきましては、いま御指摘いただきましたように、HPに公開するだけではなく、紙物で印刷しまして調査相談のカウンターに、一般図書班のところにありますけれども、その周りの所にバックナンバーも含めて常に手にとっていただけるよう形にはしているんですね。申し訳ないですが、その利用状況というような形でそれが次々なくなっていくようなものもあれば、ずっと動かないというところもあって、数の把握はしておらないかとは思いますが、一応そのようなところで利用頻度の状況というのは係の者としては押さえているところかなと思います。

○ 議長

その他、いかがでしょうか？

○ 千葉議員

すみません。６ページの２２番に「図書館のための図書館」となっていますが、県立図書館はつまり、県内の中の核となる図書館としての役割という意味だと思うのですが、例えば、県内の図書館同士の相互間の連絡協議会みたいなものですか、いろんな行き来というものは何かあるのでしょうか？定期的に集まって図書館同士の情報交換ですとか、そういうものの機関はありますか？

○ 浅野部長

はい。年に三回ほど会議を開いてございまして、県内の全市町村図書館と４月に１回、７月に１回、あと１２月に１回会議を開いてございまして、それぞれ市町村図書館等さんから御意見をいただきながらどういったことをやっていけばいいのか、また、各市町村図書館の抱えている課題等も結構ございますので、どういった視点で、どういうアプ

ローチをしていけばより良いサービスを提供できるのか、そういった会議を開いてございます。

○ 千葉委員

分かりました。

○ 議長

よろしいですか。

○ 武者委員

6 ページの 24 番の「県全域を対象としたデジタルアーカイブ推進」というところと、8 ページの 30 番の「震災関係資料デジタルアーカイブの構築」、アーカイブという言葉が共通しているのかなと思ってお尋ねします。アーカイブについては、システムを使いやすくしていただいていると思っているのですが、片方の評価が 2 で、片方が 4 というこの辺はどういう風に違うものか教えていただければと思うのですが。

○ 浅野部長

はい。6 ページの 24 番の「県全域を対象としたデジタルアーカイブ推進」ということで、一つの例としては大震災のアーカイブ宮城の図書館のサービスの中で、提供する中でそういったもの構築していこうという計画だったんですね。それで、今やっているのは図書館としては、デジタルで提供というのは県図書館としてはやっているんですけれども、それを各市町村図書館さんのほうで、一括で共有できなかったというところで、評価は 2 という事にしたということでございます。

○ 武者委員

市町村図書館とのほうに広がりというのがまだつくれてないという。今後そちらを目指していくということですか？

○ 浅野部長

前期の計画では、市町村図書館も含めて、みんながみんな連携してデジタルアーカイブを一つのものとして作り上げていこうという計画だったんです。8 ページのほうは、東日本大震災だけに限った形でつくってまいりましたので、それに対してはちゃんとできましたので、達成度は 4 という形になりました。

○ 武者委員

24 番は、そうすると、震災だけではないということですか？

○ 浅野部長

はい。

○ 武者委員

震災だけではないというのは、具体的にどのようなものでしょうか。郷土資料とかですか。

○ 浅野部長

そうですね。まず、市町村図書館さんでもデジタル資料は持っておりますので、そういった物を全部集めまして、県図書館が中心となってそういったものを全部集めて、提供できるような形にしよう、と当初は考えていた計画だったみたいです。図書館単体では、デジタルアーカイブを提供しているところはあるんですけども、各市町村さんとの連携ができてなかったものですから、その達成度は2ということで。

○ 武者委員

難しそうですね。

○ 浅野部長

当初の計画の段階が、あまりにも大きすぎて、取組をどうやっていこうかというのを悩んでしまって、少し取組が遅れてしまったというかできなかったというのが現状でございます。

○ 議長

いかがですか？よろしいですか？ただ、少なくとも、6ページの24番の最終評価の達成状況と課題等及び改善点・見直し点の記述に関しては、書き方に関しては、御修正いただいた方が、いまの浅野部長の御発言の内容に合わせて書き換えが必要かと思えます。それから、もう一点は、では、何をもってどういう風にしたら、優れた結果になったのかということが、いま、浅野部長から御説明いただいたのですけれども、今ひとつ見えてこない部分が正直ありまして、その部分について今後の改善を図るために評価を行なう訳ですので、その部分の改善点・見直し点といった時に、本来のあるべき姿というのがどうなのか。それは、組織運営の問題なのか、あるいは、費用等の問題なのか、あるいは、事業の内容の問題なのか。具体的に、盛り込んでいただいた方が、分かりやすいのではないかというふうに、武者委員の御指摘はごもっともだと思いますし、そのように生かしていただければと思ったのですが、いかがでしょうか？

○ 浅野部長

そのように最終評価を修正したいと思います。基本的にこちらとしては、東日本大震災アーカイブができたということがありましたので、その部分は評価をして、それ以外には評価しないと記載したものですから。

○ 議長

よろしくお願いします。ありがとうございます。その他は、いかがでしょうか？

○ 柴崎委員

すみません。7ページの図書館の「サービス基盤を強化する取組」のところで、貸出返却手段の多様化検討というところで、市町村図書館等返却制度の開始により、遠隔地利用者への利便性が向上したとあります。一番最初に御報告がありましたとおり、昨年六百何十件というすごくたくさんの方が利用があったということで、本当に始めるまでは大変、いろいろ心配しましたがけれども、いざやってみるとこういうような結果が出て本当によかったなあと思っています。これからも、遠くの方がここを利用してその本を返すというときに、地元の図書館で返せるというのはとても便利なことなので、引き続きやっていただければ、本当にありがたいです。

○ 宮川委員

よろしいですか？

○ 議長

はい、どうぞ。

○ 宮川委員

あの、質問です。宮城県内で図書館のない市町村があつて、なおかつ、本屋さんのない市町村というのが資料の22ページを見ますと、5町村とあつて県のこういった本屋さんや図書館のないようなところに対して、何かこう図書館の中の図書館という立場から特別になにか取組をなさっていることがあれば教えていただければと思います。

○ 浅野部長

24ページにもありますけれども、書店がない市町村は5町村という形になってございます。資料2-1の24ページを御覧いただきますと、書店がない市町村に関しましては、七ヶ宿町さん・七ヶ浜町さん・大郷町さん・大衡村さん・色麻町さんの以上5町村が書店がないという形になるのですが、市町村図書館が条例で定めておりまして、それらを市町村図書館と言います。その他の市町村図書館につきましては、公民館図書室というものがございます。図書館のサービスを提供する場では県の図書館としては、市

町村の図書館さん、条例で設置された図書館さんと公民館図書室さんを含めて、図書館サービスを充実していこうということでやってございますので、基本的にはこちらとしては35市町村に各図書館がすべてあって、それに対してこちらで支援もしていくという形でございます。

○ 議長

今の御回答でよろしいですか？

○ 宮川委員

はい。

○ 石川部長

若干、先ほどの書店のない市町村について、浅野部長からお話あったのですが、結局少しデータ自体が古い物ですし、現在七ヶ宿町さんですと、新しい図書館、図書室がオープンに伴ってだいぶ状況が変わってきていると思います。ただ、なかなか宮城県図書館にある資料をそちらに一時的に提供して、御利用いただくところまではできないものですので、いま、浅野部長のほうからお話しましたように、そうした市町村図書館さんたちと図書室さんというような所を手がかりにさまざまな必要とされる方々の御要望に応えられるよう、協力貸出のような形で対応するというようなものが今現在のところでございます。それ以外に、子どもの本移動展示会などもお話しましたように、小中学校の学校図書館がそうした展示会の対象になっているところもございますので、そうした部分で、いろいろとこちらのものを展示するとか、あるいは図書館職員の出前の講座・研修会などを開いた時に、学校図書館さんにも入っていただくような形で研修をつんでいただくと、それによって支援していこうというような形が今のところの現状でございます。

○ 議長

その他、御質問や御意見はございませんでしょうか？

それでは、先に進ませていただいております。

続きまして、「報告（3）第3期宮城県図書館振興基本計画について」事務局から説明をお願いします。

○ 浅野部長

「報告（3）第3期宮城県図書館振興基本計画について」説明いたします。（以下、資料3により説明）

○ 議長

はい、ありがとうございます。非常にタイトな計画でございますので、把握をするのになかなか大変だと思いますけれども、何か御質問があれば、お願いします。

○ 佐藤（初）委員

すみません。26ページのところの先程の御意見にありましたけれども、入館者数のところなんですけれども、平成34年度で39万人というところで、具体的な方策案とか…。要するに、今までの傾向を見ると、なかなか現状維持というのは難しいのかな、と伺っているところで、増加というところを見たときに、これをすれば、増えるんじゃないか、というのがもしあるのであれば、言っていただきたいです。もし、そのあたりが先程お話しに出たような、そもそもの人口減少みたいなことがあるのであれば、なかなか入館者数の増加を目標にし続けるということは、ちょっともう難しいのかなと思うのですが、いかがでしょう。

○ 浅野部長

こちらの目標につきましては、39万人が4年後の目標ということで、設定をしたところでございますが、考え方としては今の入館者数を減らしたくない、なんとか維持をしていこうという事で考えた数値でございます。増やすためには今の時点で効果的な何かが考えられるかという点になりますと、すみませんそれはちょっとまだこれから考えていこうという段階でございまして、なかなかちょっとこれですというお示しができる所ではございません。その中でも、今回の羽生選手のサイン色紙の展示等を運良く行うことができるということもございますので、そういったものを活用しながら、図書館にまず来ていただくためのPRを充実させていこうということで計画はしてございます。具体的には何をするとかはまだないですけれども…。

○ 佐藤（初）委員

各イベントは増加しているというお話でしたので、そのあたりを活性化するのはかなあと思っていたのですけれども。ありがとうございました。

○ 中川西委員

いいですか？

○ 議長

どうぞ。

○ 中川西委員

図書館の機能としては、資料館としては完璧を狙っているなあというふうに思うのですね。それと、県民の方の来やすいというか、憩いの場の図書館みたいなそういう面での施策もあればなあ。ただ、予算もあれなので、あれなのですが。いわゆるその、調べ物をしようとしたときに、地方の図書館からも検索できるし、それは完璧に網羅できているなあと思うのですが。ぶらっと図書館に行ってみようみたいな、肩に力の入らない図書館もあってもいいのかなということで、子連れで来ても大丈夫みたいな、子どもさんをこちらで預かるから大丈夫みたいな、よく分からないですけど。お母さんが本を探すとか。児童書なんかでも、本当にたくさん本県の図書館があるよ、って伺ってますので、小さい子どもだとだっこしたりおんぶしたりでいいんでしょうけど、2歳3歳になると走り回るとか、そこを分離しながらお父さんとかお母さんが本を探して、そういうハードではないところがあっても。簡単に言えば憩いの場の図書館みたいなイメージもあれば、もっともっと来やすいのかなあ。特に、商業施設もあるものですから、ああいうところの方々も呼んで来る、みたいなことがあればいいのかなと思って。そういう意味で、どの辺の方々がどうなっているのかということ进行分析すると、逆にこういう施設があるともっと来やすいんだろうなあと思いました。あとは、高齢者も増えているので、ぶらっと来て、一日いても大丈夫そうなそんな環境づくりもあっていいのかなあ。本当に資料としては、立派だと思っています。それからですね、ボランティアのところに、高校生のインターンシップでボランティアをやらせる企画みたいな、当然小中学校も。図書委員みたいなものが、どこでもいращやるものですから、そういう方々を長期休み期間に、インターンシップなんかでやると、それが学校に戻って、それが広まるというか、そういう小中高校生を育てるという意味で、図書委員をボランティアで出してみるみたいな企画もいいし、他の高校生の企画、今月はどこかの高校生がこの企画をするよ、みたいな。そうやって呼び込むと高校生も、友達も、保護者も来てもらって新しいと。ちょうど1階の東口のあの辺のスペースなんかを、いろいろ使っていращやいますけど、あの辺あたりで、田尻さくら高校さんがそんな企画もやっていただくと、本当に来やすいと思います。

○ 議長

須藤先生、何かありますか？

○ 須藤委員

いま、中川西先生が仰ったことと重なる部分があるのですけれども、21ページのところ県民の生涯学習支援の一環として、より多くの学習機会を提供するために、とあるので県民大学のだいたい内容については若干簡単につかまさせていただきましたが、ハードルの設定としてどうなのかなと思ったのは、いま、田尻さくらというふうにあります。

したけれども、田尻さくら高校というところに勤めているのですが、本校は、ユニークな場所でございまして、生徒が受けている授業を広く地域の方々に、開放し、1講座あたりという形で、受講を科目履修生という形で募り、今年度に関しては、90人の方に履修していただき、平均年齢60代から70代の、階段のところまでなかなか厳しい80歳の方などにも、そうやって受講していただいているというところで、だいぶお話をさせていただくような機会があると、本当に日常的な向学心がものすごい強いなというところに驚かされています。そういう意味では、潜在的に高齢の方々の向学心が日常的な意味での学びへの意欲がものすごいなあと感じるにつけ、正直、利用者が減っているということには、そうなんだというふうに正直思ったところがあったのですが、いろんな講座的なものに関して、もう少しだけたものであるとか、図書館の資源を活用できるところをもう少し広く考えていただくと、その辺の関心というものはまた違ったものになるのではないかと、日々の生活の中で感じているようなところでございました。すいません、ついでにもう一点ですが、私も高校という立場で、17ページの「学校図書館との連携を推進するとともに、支援の充実を図ります。」というところの、主な取組の3つ目、4つ目あたりですが、前に、高校の国語の教員で、県図書館の源氏物語絵巻だったと思うのですが、それを貸し出して当時の平安時代の暗い部屋の雰囲気なんかを教室につくって、そこでろうそくの火を灯して、その源氏物語絵巻を使ったものすごいわくわくするような、授業をされた先生の発表を聞いたことがありました。いわゆる高校の取組に、例えば先生がのってやった授業だったのかなと振り返っていたのですが、正直、高校の現場にいと、そういうことを県図書館で提供してくださっているということがなかなか伝わっていないところがあります。幅として、例えばどんなことが可能で、どんなふうなことが例えばできるのかみたいな情報については、学校の現場に届くようなPRという意味で、もし、こちらができるようなことがあればなんでもやりたいなという思いで、よりいま学習サポート機能というところでの図書館というところが注目されているところだと思いますし、ぜひ、具体的なところで、より届くようなかたちで、こちらにそういう情報をいただければなあと思います。以上です。

○ 柴崎委員

すみません。また、入館者の話に戻りますけれども、ここ何年か県内新しい図書館がどんどんオープンしておりますし、地域で図書館が頑張っています。入館者の減少っていろんな要因があると思うのですが、その要因の一つに地域の図書館が頑張っているというところがあるとしたら、それは必ずしも悲しむべき数字ではないと思うので。ただ、これ以上少なくならないように、現状維持というのはとても必要なことだと思いますので。図書館戦争の映画の時も、一時的にすごく入館者がありましたけれども、いろんな面白い取組をすることによって、現状維持を続けてもらえればなあという感想です。もう1ついいですか？

○ 議長

はい、どうぞ。

○ 柴崎委員

すみません。市町村の立場から。巡回相談のことについて、いつも疑問に思っていることがありまして、春と秋に2回来てくださるのですけれども、巡回相談でお話をいただくことというのが、4月の館長会議でお話をもらったのを、そのままもう1回繰り返してお話してくださるというようなことなので、もうちょっと気軽な雰囲気で、担当の職員が業務についての悩みなどを相談できるような形の巡回だったらいいのかなと思うのですけれども、そういう雰囲気でもないし、ただ伝達だけだったらわざわざ来てもらわなくてもいいのかなと思うこともあるので、もう少し職員が気軽に相談できるような形はないのかなと常々思っていたものですから、巡回相談については少し考えていただけないかなと、思っています。来ていただいて、普段どんな運営をしているのかというのを、見るというのも、県図書館の方々にとってはとても大事なことだと思うのですけれども、見ていただいたら何か感想を言っていただくとか、指導していただくとかあればいいのですけれども。もう少し、職員が気軽に相談にのれるような雰囲気であるとか、体制であるとか、そのようなものを考えてもらえたら嬉しいですね。

○ 館長

はい。いまの点なんですけれども、私が巡回相談の復命書を見る限り、非常にざっくりばらんに意見交換をしているのかなと思っていたのですけれども、実はそうではなかったのですね。すみません。

○ 柴崎委員

うちだけかもしれないので、他の図書館さんは、ざっくりばらんにいろんなことを聞いているのかもしれないですが、うちの職員は身構えちゃって、気軽に簡単な質問をできる感じでもないし、どうなのでしょう。他の図書館さんがそうであれば、全然問題ないのですけれども。

○ 館長

すみません。戻りますけれども、結局図書館の中の図書館という具体的な例としては、市町村図書館に対する支援というものは非常に大事なものだと思っております。結局、県図書館といいつつもここにしかないものですから、そうすると当然ここ仙台市あるいは泉区の住民さんがやはり多いんですね。やはり、その場合気仙沼市あるいは七ヶ宿の住民あるいは町から県図書館というのが必要だと思われるためには、何をすべきなのかということは、やはり考えるべきだと思っていました。その中の具体的なものとして、

巡回相談ですごく相談に回るのかなと思っていて、先ほども言ったとおり、復命書を見る限り色々と意見を交換されてたかなと思っていたので、少しその辺りは考えたいと思います。伊藤班長はなんかある？巡回相談に関して。

○ 伊藤班長

巡回相談、いま、柴崎委員からおっしゃっていただいたとおり、基本的な説明事項、まずそういった時間を設けまして、その後に気軽に情報交換ということである程度趣旨をお話した上で、何か疑問に感じていることをお話していただけますかということで、こちらのほうは話しかけるようにしております。ただ、やはり時間との都合でなかなかうまくお話できないところもあるかと思いますが、2回目以降後期もまたありますので、その点十分そういった雰囲気を作れるような私どもも話し方をもっと気軽に、せっかくこういった対面でのなかなかできない貴重なそういった相談の機会ですので、色々な情報交換をできる場にあってほしいと思うところもありますので、こちらのほうもさらなる工夫してまいりたいと思います。よろしくお願いいたします。

○ 議長

よろしいですか？それでは、先に進ませていただきます。「報告（４）平成３０年度事業計画について」事務局から説明をお願いします。

○ 石川部長

「報告（４）平成３０年度事業計画について」説明いたします。（以下、資料４により説明）

○ 議長

ありがとうございます。若干コメントさせていただきますが、柱と言いますか図書館の根本となります資料整備費につきましては、平成２８年度から六千万以上を確保いただいて、今年度も一割程度増えていると思います。それ以前につきましては、五千万円をきるような非常に厳しい状況の中で進められてきていて、東日本大震災以降も厳しい財政下の中でも、予算増を確保していただいたということがありますので、この点非常にありがたいと思っていますと同時に、中川西委員からも先程ございましたように、これをどうやって生かしていくか、その面についても、入館者にしてもそうですし、あるいは、貸出数とか利用全体について図書館のための図書館というところで、事業計画の中で全体的にどう生かしていくかということを考えていく必要があるかと思いますので。もちろん、主体は宮城県図書館でおやりになることでございますけれども、私どものほうでも、知恵を出させていただくということで、コメントをいただければと思います。というようなことで、御意見や御質問をいただければと思います。

○ 佐藤（初）委員
すみません。

○ 議長
はいどうぞ。

○ 佐藤（初）委員
経費の話なんですけれども、県図書館というのは、例えば、外部の財団とかそういったところに、助成金の申請とかは普通しないものなんですか？県からいただく予算で全てを実施するのですか？

○ 議長
よろしいですか？先程御説明のいただいた全体的な振興計画に沿って、初年度にあたるということで、御理解いただいたと思いますけれども、何か漏れているようなこの事業のところをもっとこのようにできないかということも含めて、御意見等をいただければと思うのですけれども。

○ 佐藤（初）委員
大学図書館からの立場からの情報なんですけれども、この計画案を見せていただくと、小さいお子さん、あるいは、小中学校のお子さんへのサポートがいろんな形でされているというふうに思ったのですけれども、高校生へのサポートというのが、若干…。いま、それぞれの高校にも司書さんがいらっしゃって、いろんな読書推進運動をされていると思うのですけれども、私ども、大学図書館の方にも、司書さんの方からいろいろ御相談をいただくことが多くて、いま、スーパーサイエンスハイスクールであるとか、いろんな調べ学習というのでしょうか。高校は違う言い方なのではないでしょうか。そういう自分で調べて、レポートにまとめるという授業をされているようなのでしょうか。そのところがやはりその司書さん1人では、なかなか難しいので、どういうふうに行っているのかというのを、大学1年生に説明するようなものを、お願いしたいという御依頼をいただくことが増えております。こちらとしても、高校生のうちに何か準備していただければということで、伺ったりすることもあるのですけれども、なかなか人手がそこまではまわらず、では、動画をつくったらどうだということで、去年から動画をつくってみたのですけれども、言いたいことが多すぎて長大な動画になってしまって、これは高校生は見ないということで、いったんボツになって、もっと短く、インパクトをということで、しばらく時間がかかりそうなので、方向性を調べ学習のところに対応するような、例えば、学サポセットのレファレンス資料を重点に置いたものとか、新聞データベース使えるものであるとか、そういったところを御案内いただくと非常に大学図書館側

としては、ありがたいですね。

○ 議長

多分、中川西先生も須藤先生も先程、仰った内容と少し関連している部分があるのではないかと思います。実際読書離れと言っているときに、一番典型的なものは高校生なんですよ。小学生は減っていない。この30年ほど、小学生はむしろ増えていて、中学生・高校生が減っているはずなんです。新聞のアンケートとか調査を見ますと。そういう状況の中で、実は、日本だけではなくて、諸外国でも、高校生年代の図書館離れというのが、深刻で、高校生で離れてしまうので、その後の20代、要するに30代全般位まで、影響が来てしまう。ですから、公共図書館において、その世代をどうやって捕まえるかというのが非常に大切だということが所々に随分言われるようになってきているのですけれども。実は、昨年度の議論の中であった点を御紹介させていただくと、1階のオーディオビジュアルのビデオとか、カセットとかレコードのコーナーは、20年前、この図書館がスタートした時の呼び物だったんですね。要するに、御家族で車でいらして、子どもたちも含めて、あそこでビデオとか音楽を楽しんで帰る。だけど、みんなニーズが多様化してしまって、あるいは、家族で一緒にやってくるという家族自体が少なくなってしまったので、全体的なニーズとずれてきている。だから、そういう中で、1階のあその部分のコーナーというものを、もっと抜本的に見直してみたらどうかという意見も、昨年あったように記憶してまして、そういうことも含めて、どういう利用者層に絞り込んで、狙いをつけていくのかということも含めて議論いただく必要があるのかなというふうに思った次第です。また、御検討いただければと思いますので。その点で、最初に中川西先生がお聞きになった、入館者調査というのと、もちろんニーズというのは入館されない方にもニーズはおありでしょうから、その点も含めて御検討いただけないかなと思うのですけれども。できる量的に抑えられるところは抑えて、要するに、根拠のある議論ができればと思いますので、この点もよろしくお願いできればと思います。

○ 館長

いまの点に関すれば、やはり我々はどうしても県民というひとくくりで考えてしまうんですけれども、やはりそこには男性女性あるいは住んでいるところの近い遠い、あるいは中川西委員が仰るように年齢等もありますので、ターゲットをどこにおくのかということも考えながら、進めていきたいと思います。よろしくお願いいたします。

○ 議長

その他、いかがでしょうか？

○ 中川西委員

すみません。佐藤委員からもお話があった高校生というのがないなあと思ってはいたのですけれども、今、高校の方でもSDHとかSSHとかやるんですか、そうでなくて、各学校でいま、課題研究ということで、どこの学校でもそういうものが盛んになって。アクティブラーニングですかね。主体的に学ぶ。おそらく、高校の予算では買えないような資料を、今の生徒は見たがるというか。そういう意味では、東北大学さんとか、大学との図書館との連携なんかも、高校としても、あれば助かると思います。結構、専門性を追求しているものですから、そういう意味では、その連携なんかも、考えていただければ、高校としてはありがたい。先生方もありがたい。というのも、先生方も分からないですよ。それで、大学と図書館との連携という方法があると、大変助かる。というのは、1回限りではないものですから。毎年毎年変えて、テーマも変えて変えていくものですから、一過性のものではないんですよ。そういう意味では、非常に高校は助かるなあと考えました。

○ 館長

いまの点、あるいは先ほどの須藤委員の御意見もありますけれども、この資料4の2ページの(3)の真ん中に、複製資料貸出事業というのがございます。それで、高等学校や市町村図書館等に当館の複製なんですけれどもそういったものを貸出するという事業がありまして、実は今度の、須藤先生が御存知のとおり県立学校の校長会があると思うんですけども、そこにこれのペーパーを出したいと思っていました。我々ちょうどさっき指示したしたんですけれども、指示したときに「いや、もうこれ学校にいつているのだけれども」ということですね。色々なレベルで学校さんなんかにはやっているようなんですけれども、なかなかそれが浸透しないということもあるみたいなので、今回は校長会ということで是非上のほうから下のほうに下ろしていただいて、是非御活用願えればと思いますので、よろしくお願いいたします。

○ 議長

そのほか、よろしいでしょうか。それでは、以上で議事を終了いたします。
(議事終了)

16 その他確認事項

○ 牛渡次長

本日は、お忙しいところ御出席いただきありがとうございました。
以上をもちまして、平成30年度第1回宮城県図書館協議会を終了いたします。
本日は、どうもお疲れ様でした。
閉会